

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

# sanbi-i-com 2009年8月号(No.108)

## 電子出版・電子カタログの動向①

### -日本における電子(ネット)書籍の現状-

今回は、「電子出版・カタログの動向」として、すでにデジタル化されているコンテンツをネットワーク配信にどう生かすか、そのいくつかの動向についてお届けします。第1回目は「日本における電子(ネット)書籍の現状」についてです。

#### ■日本における電子書籍市場の現状

今年7月インプレスR&Dが発表した2008年度の日本における電子(ネット)書籍の市場規模は464億円、前年度比131%となりました。2007年度に比べて伸び率は鈍化したものの、順調に成長しているといえます。

(1)電子書籍市場の成長を牽引しているのは、携帯向け書籍(特に電子コミック)で、電子書籍全体の86%となっています。

(2)一方PC向けの電子書籍は72億円、対前年度比86%と初めてのマイナスとなり、課金制度などがネックとなり、利益の出るビジネスモデルが見えていないのが現状です。

(3)ただ、雑誌と書籍を合わせた日本の出版市場は2兆円余りですので、電子書籍市場はまだまだ小さく、携帯ユーザーの電子書籍利用率も32.7%(内無料のみが24.6%、有料が8.1%)と携帯向書籍にしても十分に普及しているとは言えません。

(4)アメリカではネット書籍販売大手のAmazonが、今年2月に電子書籍端末の新機種「キンドル2」を発売、キンドル用に出ている本では電子書籍が印刷された書籍の35%に達しているなど、電子書籍が本格的な普及期を迎えつつある状況から見ると、日本の出版界の電子化対応はまだまた遅れている現状です。

詳しくは、下記ページもご参照ください。

<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20090710/172850/>

#### ■デジタルパブリッシングフェアで、「次世代電子出版のプラットフォーム」セミナーを開催

このような中、国際ブックフェア(東京ビッグサイト)の一環として、7月10日にインプレス、集英社、凸版印刷、シャープを中心とした電子出版プロジェクトによるデジタルパブリッシングセミナー「次世代電子出版のプラットフォーム」が開催されました。会場は200名を越える参加者でいっぱい、各社のトップおよび実務担当者から、「これからの電子(ネットワーク)出版のあり方」について概要下記の内容が熱く語られました。

(1)Web環境の進化と普及によって「2030年頃にはデジタル(ネット)コンテンツが書籍の主流となっている」という予測がある。現在のネット上の情報はページ単位で、出版界の言葉でいえば「ペラもの」である。

ネット時代の出版社の役割は、断片化された情報を知識として編集し直し、信頼性のある(有料化可能な)コンテンツとして提供していくことである。

(2)電子(ネットワーク)出版は、単なる紙媒体の置き換えではなく、作者の思いを電子出版ならではの形で各端末に合ったコンテンツに再編集、リ・デザインする必要がある、デジタルコンテンツの編集者が必要となる。

電子書籍制作のワークフローは、「入稿データの分類→ライブラリー・データベース化→各デバイスに合わせた再編集→査読・検収→配信」という流れになる。電子出版の最大のメリットは発行のスピード性である。

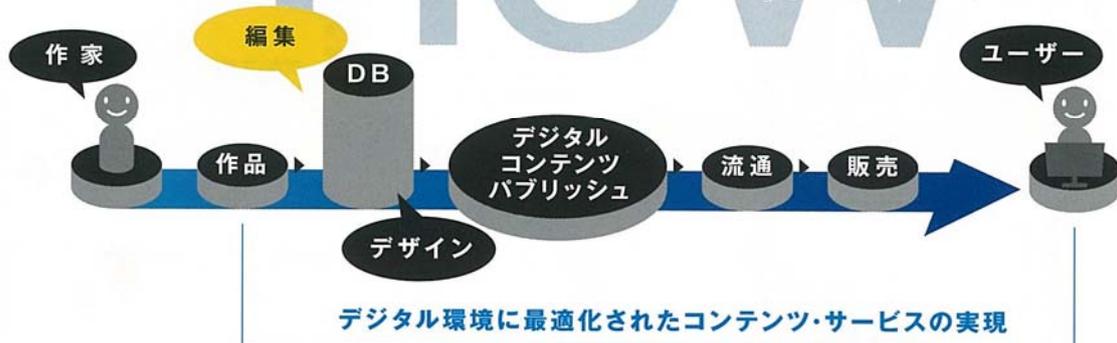
(3)現状電子書籍用データの作成は手動に頼っている面が多く、これを自動化することが今後の課題である。こ

の面ではIT企業やプリプレス・自動組版技術を持つ印刷会社の協力が重要となっている。

電子出版project1.0が提唱する、新しい電子出版。アウトプットされるデバイスに向けて編集、リ・デザインされたコンテンツをユーザーに届けるモデル。

電子出版の  
新標準

## 新しい電子(ネットワーク)出版の流通モデル



出典: デジタルパブリッシングフェア「次世代電子出版のプラットフォーム」(2009年7月10日)で配布されたパンフより

### ■日本雑誌協会が「雑誌コンテンツデジタル化促進コンソーシアム」を設立

出版物の販売額は長期のマイナス傾向にあり、特に雑誌部門での落ち込みが大きく、電子雑誌に進出した企業も黒字化しているところはほとんどないのが現状です。このような中、電子発信による新しい雑誌出版ビジネスの構築を目指して、日本雑誌協会会員出版社43社、広告代理店、印刷会社、IT関連企業など35社が参加して、8月5日に「雑誌コンテンツデジタル化促進コンソーシアム」の設立総会が開催されました。

コンソーシアムでは、

- ① デジタル化に対応した新雑誌制作ワークフローや雑誌コンテンツデータベースの検討
- ② 雑誌のポータルサービスや小額課金決済などの検討
- ③ デジタル広告や国際ビジネス企画の検討

の三つの分科会が設置され、その仕組み作りやプラットフォームの提供などの実証実験を行い、2011年度での事業化を目指しています。そして共同サイトを構築し、1社当りの負担とリスクを軽減しながら、業界として成功モデル、新たな読書スタイルを確立したいとしています。

日本における電子出版のビジネス化は全体としてはこれからという感じもありますが、様々な取組みも始まっています。情報の速報性、検索ができ・音声や動画も取り込める、ネット上での取引と連携できる、かさばらないで環境にもやさしいなど電子書籍ならではのメリットを生かしながら、どれだけユーザーに魅力的なコンテンツを提供していけるかが今後の課題となっています。

今回は、電子書籍・電子カタログ作成ツールなど、電子出版を支える技術的動向についてお届けします。

【発行】2009年8月28日 三美印刷株式会社経営企画室

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-16-7 TEL: 03-3805-7675

URL: <http://www.sanbi.co.jp>